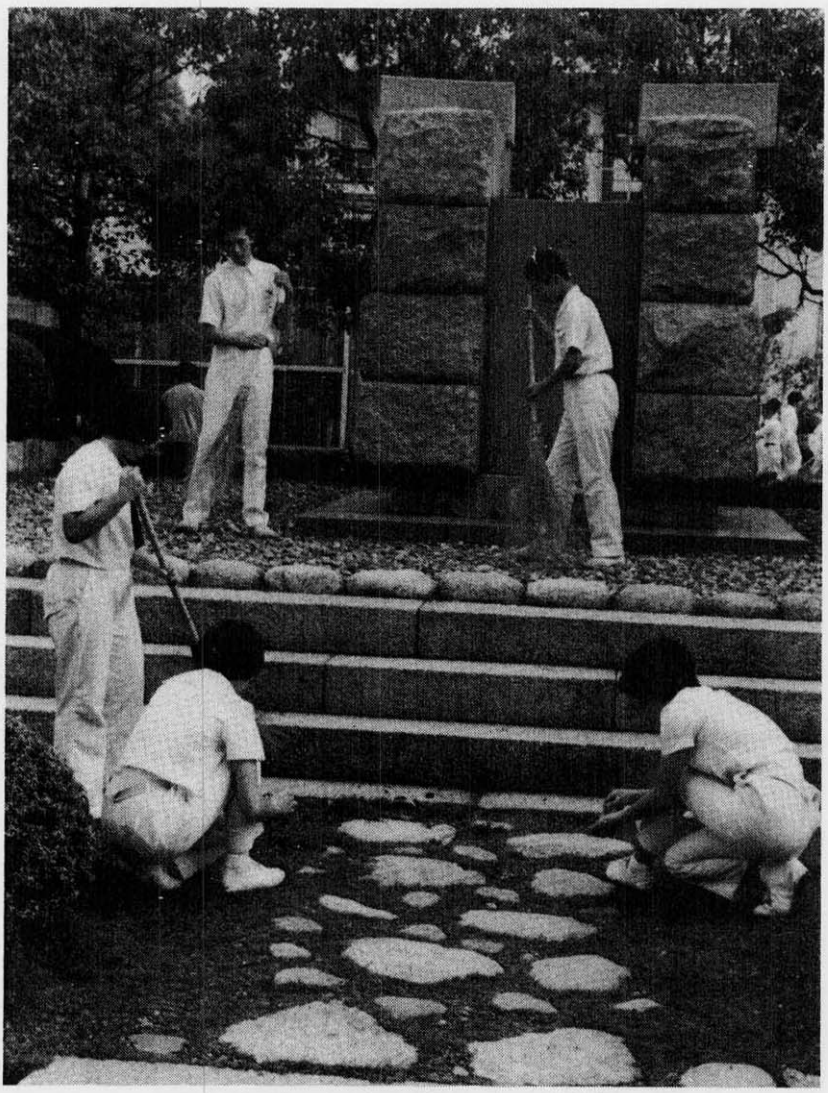
７月号

城北っ子の道標 ―― 立志の塔 ――

城北の森の一隅
楠若葉の中に建つ
登校の子に呼びかけ
箒持つ子に語る
城北っ子の心を支えて二十星霜
常に仰ぎて心安らぐ

石は地球の意志
鉄は人類の知恵
鉄の扉の中
花崗岩の懐に
巣立つ子らの夢と理想を納めて
城北っ子の道標として建つ



（立志の塔をぼくたちで守ろう ―― 城北中）

昭和59年７月１日
編集／発行
岡崎市教育委員会

— 教育随想 —

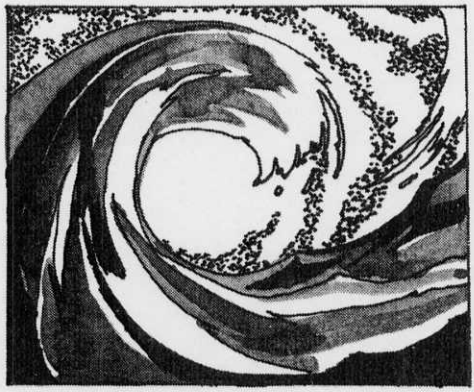
野武士野球

近藤貞雄

昭和五十七年私の率いる〝野武士軍団〟中日ドラゴンズは、セ・リーグで念願の優勝を成し遂げた。ちょうどタイミングよくNHKで大河ドラマ徳川家康も始まり、〝岡崎と野武士野球〟は全国に名を広めた。私が野武士野球と銘打ったのは、歴史的な背景と現代社会における管理万能への挑戦にあった。

戦国時代に海側を除き、陸地の東・西・北から、尾張・三河は絶えず攻められ戦火にさらされた。だが、このなかでじっと我慢、秘かに実力を蓄えていたのが野武士。矢作橋上の日吉丸（秀吉）と蜂須賀小六出逢いの伝説にあるように、信長・秀吉・家康と続く天下取りにはこの野武士の大活躍があったからだ。

では、現代はどうか。学者・芸術家・俳優・歌手ら、芸能人・運動選手らの多くが活躍の場として関東、関西の都会地に流失している。この現状から中京圏で天下を取る（優勝）のに、都会的なセンスを持ち、スマートでシャープな野球を目指していてはダメ。巨人を始め関東・関西のゲームに追い付き追い抜くことは至難のわざ。それなら逆に中京圏の田舎者に徹しよう。戦国時代に一斉蜂起して、徳川三百年、安定した土台を築いた〝野武士〟にあやかり、個性・特性を発揮してグランドを自由奔放に暴れ捲くる野武士集団を造ろうと……。



現代の管理社会の成功は野球界にまで入り込み〝管理野球〟の全盛期を迎えた。技術面はもちろん精神面・日常生活の食事面まで選手を管理してしまう。監督の思い通り選手が動くから勝つ確率が高くなるのは当然だ。だが、残念な事にはそれと共にプロ野球の原点であるファンの喜び・楽しさをも奪った。多くの社会人は管理社会でこき使われる。子供は『勉強しましたか、塾に行きましたか。』遊びに行こうとすると、『危いから止めなさい。』これではたまらない。プロ野球を見に来たら監督の意のままに、鵜匠の操る鵜、猿まわしの猿のように選手がプレーしている。これではおもしろいはずがない。発散する場所もない。私は〝よし、それならファンに大騒ぎをしながら十分に楽しんでいただき、明日からまた頑張ろう〟の気持ちになれる野球を目指そう。それで勝てないはずはない……と。これが〝管理野球くそくらえ〟と真っ向から対決した野球士野球の誕生になったのだ。

現在の選手教育は教育・環境等社会的条件が良くなり、逆にむずかしさを加えた。牛島のようにスピード・コントロール・強靱な精神力、田尾のように、攻・守・走と三拍子揃った選手は減多に出なくなった。したがって、個性・特性を十分尊重した指導、育成方法が必要になる。長所を伸ばすことに徹し、短所には目を閉ざす。タマの速さなら、コントロールなら、バッティングなら、守備なら、走るならと、この中で一つなら誰にも負けない。この自信は若い選手が大きく成長していくエネルギーになるのだ。姑の嫁いびりに見る欠点の指摘は止めること。なぜなら、自信を持つ余裕は、バランスの悪さに選手自らが気付き、欠点矯正に取り組む中から生まれてくるからである。

（前中日ドラゴンズ監督）

甘言苦言

通知票のつけ方

努力の成果に賞賛を

六ツ美北部小学校　高木哲

A教諭は、ある生徒の通知票の所見欄に次のようなことを書いた。「行動に荒れが目立ち、授業中大声をあげて授業を妨害することがあり迷惑しています。感情が高ぶり、すぐ争いを起こし仲間から敬遠されており指導に困っています。」

すると、早速親から

「うちの子の悪いことは十分知っていますが、ひとつもいい所はないのでしょうか。いったい先生はうちの子に何をしてくれたのですか。」

と迫られてA教諭は返答に窮してしまった。

これは通知票の所見欄が招いた事例の一つであるが、教育に携わる者として見過ごす訳にはいかない問題と思い、敢えて紹介してみた。

〝教育評価〟が学校教育改善課題の一つと言われる状況下でありながら、通知票に関する研究は非常に希薄である。今

ボーイスカウト指導

石原　武氏

岡崎におけるボーイスカウト活動は盛んである。中でも、一番古い歴史をもっているのが、岡崎第一団である。石原さんは市役所に勤めるかたわら、岡崎第一団を支えてきた人である。

「岡崎第一団は、昭和二十三年四月に安藤蓮舟先生（昨年七月死亡）によって結成されたんです。当時のスカウト数は十名。これが岡崎におけるボーイスカウトの誕生ということになります。私が参加したのは昭和二十五年でした。安藤先生の勧めがありましてね。」

ボーイスカウトは、青少年の人格づくり・健康づくり、知識・技能の修得、奉仕の実践を、学年・年齢に応じて実現することを目的にしてつくられた世界的組織である。活動は月に二、三回ほど開かれる集会活動のほかに、奉仕活動や野外活動などがある。指導者の人たちは普段、それぞれに仕事を持っているから、大変なことである。

「若いころは土曜日の夜や日曜日はほとんどありませんでした。確かにきつかったですね。しかし、もともと子どもたちのめんどうを見ることが好きでしたから、ここまでやれてきたと思いますよ。活動の中で子どもたちが感激したり成長したりしていく姿を見ますと、本当にうれしいものですよ。」

子どもたちはボーイスカウトを卒業してからも、石原さん宅を訪れる。そこでも、石原さんは、学校や職場の悩みのよき相談相手である。

職場の悩みのよき相談相手である。

「これまでの活動で一番思い出に残っているのは、第一回の軽井沢での日本ジャンボリーですね。昭和三十一年の夏でした。私も十名のスカウトと参加しましたが、人のつながりの素晴らしさを学びましたね。」

最近の子どもたちを石原さんはどのように見られているだろうか。

「よく言われていますが、やはり忍耐力や体力が弱くなっていますね。考えることはするんですが、汗を流して行動することがなかなかできません。それと、たての人間関係が希薄になってきましたね。コミュニケーションの場をつくったりしていくことが必要ですね。」

石原さんは地元はもとより、県連盟理事や日本連盟中央審議会議員として、幅広い立場でこの活動に尽力されている。十年前には総理府主催の青年海外派遣団の副団長としてヨーロッパやソ連を視察している。また、五年前にはアメリカヒルモント指導者派遣団の団長として参加している。

「昨年の夏休みは岡崎第一団の三十五周年を記念して、スカウト三十名を東南アジアに派遣しました。これからは国際的な交わりも大切でしょうね。」

石原さんの長男徹さんも岡崎第一団のカブスカウト隊長として活躍している。橋渡しも順調な石原さんである。

［生年月日　昭5・7・26
［住　所　保母町字新井三三］

信頼を深める所見を

六名小学校　牧　太刀弥

「先生、通知票いつくれる？」

学習成績のふるわないA子に尋ねられて、首をかしげたことがあった。成績が上がることを楽しみにしているかのようであった。早速A子の通知票を見かえしてみたが、向上していない。A子の期待に応えられない。不憫だと思った。しかし、行動性格の所見に、「みんなの雑布を集めてすすぎ、後始末がきちんとできた。」といったような一文を見つけ、安堵した。

通知票を渡す時、この行為を強調して激励してやった。その時のA子の笑顔が今も忘れられない。学習成績にだけこだわりをもって通知票を作成してはならないことを、A子から教えられた。

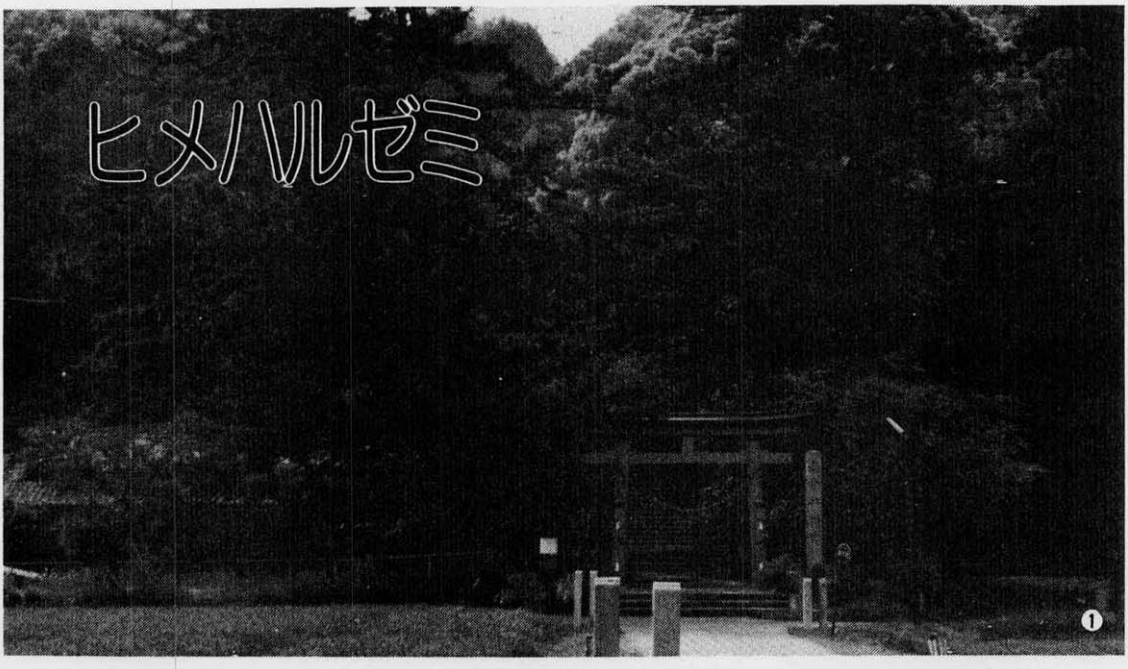
「成績も悪けりゃ、行いも悪い。いいとこなしで、なっとらん。」

こんなむごいことばはない。

「先生は、ぼくのこんなところまで見ていてくれたんだな。」

子供が意欲を燃やし、先生への信頼を一層深めるような所見を書いてやりたい。心を傷つけることばや、誤字脱字のないよう細心の注意を払って書いてやりたい。こそ教師は《本人の努力の成果を賞賛してやり、今後における一層の努力を促すきっかけにするためのものである》という通知票本来の機能を想起し、その目標の達成に努めたいものである。

ヒメハルゼミ



家康公ゆかりの山中八幡宮。この社叢林には、全国でもまれなヒメハルゼミが生息している。このセミは、体長が二・五センチほどで、太古にこの地方一帯が暖帯照葉樹林で覆われていたころ栄えていたものが、現在では、その当時の林が残されている地域のみに生き残っている遺存的な種である。

山中八幡宮の社叢は、その大部分がツブラジイで、これにクロバイ、イヌガシなどが混生し、常緑の暖帯林からなっている。

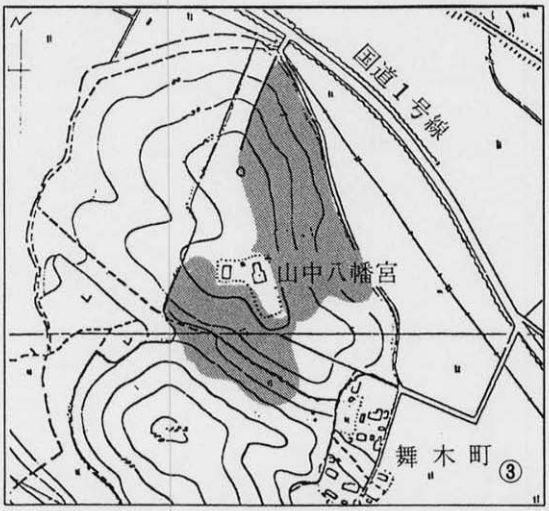
ヒメハルゼミの成虫は七月上旬からみられるようになる。鳴き声は中旬より聞かれ八月上旬まで続く。鳴き方は、単発的に音頭をとるセミがいて、これが初めに鳴き、その後まわりの数多くのセミがこの声にうながされたように一斉に鳴き始め、大合唱となる。

夕方、午後五時三十分ごろから鳴き始め、薄明がなくなる七時三十分ごろまで連続的に合唱が聞かれる。しかし、この時刻を過ぎると、一斉に鳴きやんでしまい、あたりには物音ひとつしない静寂な夜が訪れる。明け方やくもりの日の日中にも鳴き声が聞かれることから、鳴き声は明るさに関係するようである。鳴き声はゼーム、ゼームともジーオ、ジーオとも聞こえる。

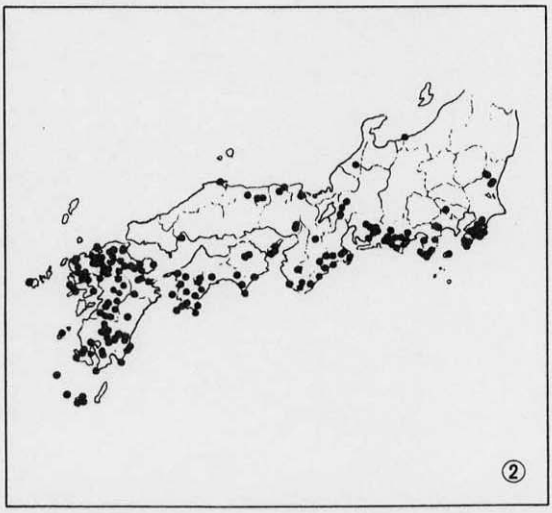
雄の腹部は大きく、中空になっており、共鳴箱の働きをしている。雌はやや小型で、長い産卵管が特徴である。

昭和五十七年に市の天然記念物の指定を受け、その後永続的に保護されるようになった。

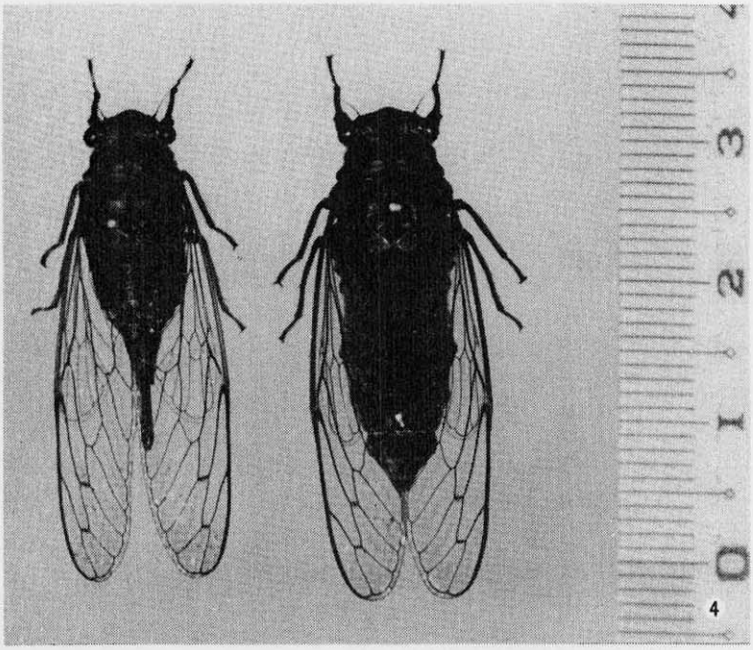
今年も山中八幡宮の社叢林にはヒメハルゼミの大合唱が聞かれる。一度、耳を傾けてみられてはどうだろう。

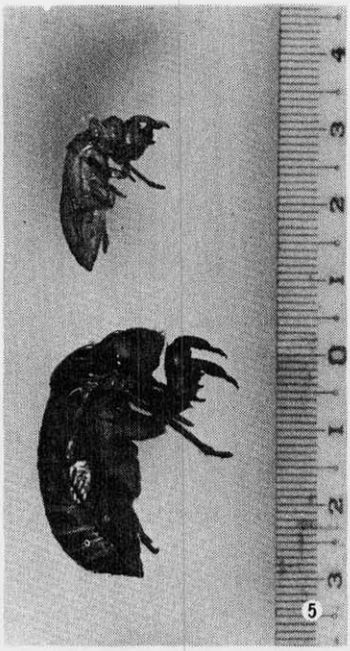


③



②





① 市の東部舞木町の山中八幡宮。東側登山道より社叢林を望む。

② 日本におけるヒメハルゼミの既知産地。大野正男（一九七七年）による。

③ 山中八幡宮社叢林でよくヒメハルゼミの合唱が聞かれる区域。

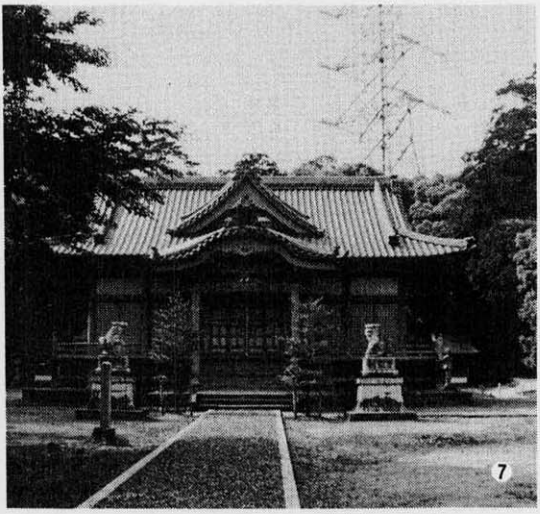
④ ヒメハルゼミの雌（左）と雄（右）

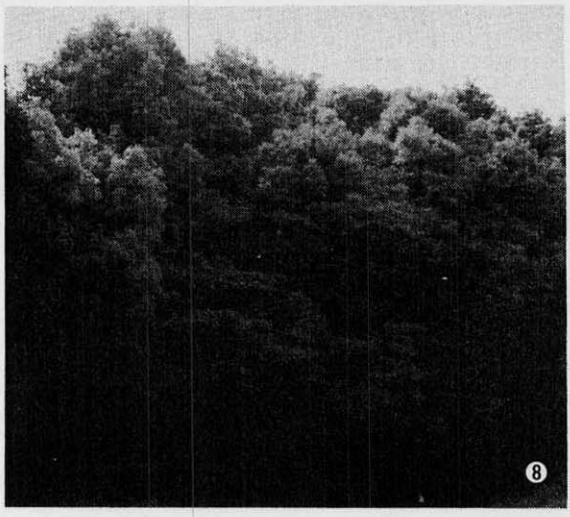
⑤ ヒメハルゼミ（上）とクマゼミ（下）の羽化殻。

⑥ 昭和五十七年、ヒメハルゼミの生息地は市の文化財に指定され保護されている。

⑦ 山中八幡宮社殿。社叢林は県の自然環境保全地域に指定されている。

⑧ 山中八幡宮社叢林はシイ（ツブラジイ）を主とする常緑広葉樹からなっている。





自己満足への警鐘

細川小　菅沼　和子

学級通信なるものを始めた。やる以上は「毎日」と決めた。

今年は持ち上がりの二年生。一年の時とは違う何かが欲しかった。一年生の三学期に子どもたちが日記を始めたことを思い、「先生も、今日から毎日、みんなにお手紙を書くからね。」と、約束してしまった。

お説教は書かず、毎日の生活の中で、ほんのちょっぴりだけれど、子どもたちの心の中に入っていくようなものにしたいと思いながら続けてきた。

「Oくんが手を挙げたよ」「びっくりした、Nくんのファイルせいり」「Kくんは、ザリガニはかせ」「いつもかえってくるKさんのありがとう」「ヤッタ！Hくんのそうじが◎になった」などなど……。

通信に載れば、家でもほめられるから、とても認められた思いであるに違いない。私は、心の中でにっこりとしていた。

ところが！

ある日、一人の女の子の日記に、こんなことが書いてあった。

「わたしは、いつもまっすぐピンと、手をのばしてあげているのに、あまりさしてもらえません。そうじだって、ずっと◎だけど、つうしんにのらなかったし、ファイルの中も、ちゃんとじゅんばんにきちんと入れているけど、つうしんに書いてありませんでした。一どくらいは、のせてください。」

この子は、クラスでも一、二を争う優秀な子。勝ち気というわけでもなく、みんなから信頼され、私も良さは十分すぎるくらい認めている子である。

通信にむかう時、普段、目立たない子、自信をなくしている子を認めてやろうと、私の意識は、どうしてもそちらへいってしまう。授業でもそうだ。遅れがちな子の手があがるとつい、あててしまうのだ。あの子は、放っておいてもやれる、とまで極端でないにしても、それに近い、私の気持ちが、こういう子に満たされない思いをさせたのだと思う。四十五分を割ると、一人当たり約一分間。この時間分くらいは、私の目がその子に注がれていると感じてくれているだろうかと、改めて、子どもたちを見つめてしまうのである。

収穫の喜び

大樹寺小　岡本　孝幸

「おうい、トマトに実が…。」目を輝かせて教室に飛びこんできたA君。どの子もさっそく学級園に向かっていった。

わがクラスは、学級園にスイカ三十二本、トマト、メロンを十六本ずつ作っている。

班で苗を畑に植えたのは五月の初めで、小さな苗から実ができるか半信半疑の子供たちであった。当初は、スイカの苗が枯れかけていても見向きもせず、関心はなかった。

ところが、実ができ、一日一日大きくなるトマトなどを見て、「どうして枯れちゃったの…。」と、今まであまり世話しなかったことを悔やむY君のような姿も見られるようになった。こうして学級園に自分から足を向ける子が増していった。

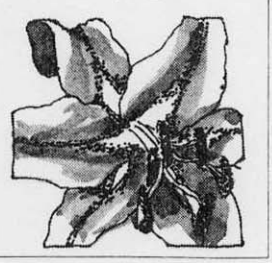
生産意欲はだれでもあり、収穫できた時の喜びには大きなものがある。班で協力し、農作物を育てることによって、みんなで喜びを感じ、仲間意識が育つと考えている。からから天気が続くとみんなでせっせと水かけなどし、苦労すればするほど、班での一人ひとりの結びつきは強くなっていくものである。

五年生では、社会科で日本の農業を学習する。クラスの中では農業をしている家はなく、スイカなどがどのようにできるか知らない。その点、これらの農作物を育てることにより、農家の苦労が体験できる。

先日、野菜作りの学習で河内さんの家を訪ね、「なす作り」の見学をした。そこで、アブラムシが大発生し、消毒にとても苦労していることを聞いてきた。学級園のトマト・スイカにもアブラムシがいるのを発見した。子供たちは、河内さんから、どんな消毒をしたらよいか聞き出して消毒をすることになった。

新学期当初、班作りで何回もグループを作り直した。そして学級園のスイカ作りが始まるとその班で続けることになった。週直の活動もようやく軌道に乗り出した。スイカ・トマトが小指の先くらいから、親指の先の大きさに一日で大きくなるのを見て、子供たちは驚きの声をあげ、笑みを浮かべる。今から、スイカわり大会など、学級でのお楽しみ会を待っている。

おしらせ



【寄贈刊行物・資料等】

◆アナライザー利用の研修
B5　アナライザー委員会

◆この一冊　第21集　梅園小
B5　七八ページ

◆矢北っ子　第20号　矢作北小
B5　八一ページ孔版印刷

◆岡崎の教育　第24集　教職員組合・現職教育委・校長会
B5　一〇五ページ

◆君はM31を見たか　明保俊通
B5　一一〇ページ上製本

◆葵中の教育　自立と感動その3　B5　六三ページ　葵中

◆ふれあい　第10集　教務主任会
B6　一〇八ページ

第十一回　岡崎市民大学

会場は「せきれいホール」

本年度の岡崎市民大学は、新装成った「せきれいホール」で開催。作家の笹沢左保氏をはじめ多彩な講師、内容は次の通り。

◆期間と講師

①七月二十二日（日）
中部大学教授　神谷　満雄氏
「くらしと経済」

②八月十二日（日）
NHKディレクター　野口篤太郎氏
「シルクロードを取材して」

③八月十九日（日）
岡崎国立共同研究機構長　内藤　耕二氏
「眠りの精」

④八月二十六日（日）
評論家　上坂　冬子氏
「人生のドラマ」

⑤九月二日（日）
国際商科大学教授　中岡　三益氏
「中東の人と社会」

⑥九月十六日（日）
作家・青年塾主宰　笹沢　左保氏
「明日はわが身」

◆時間
九・三〇　受付
一〇・〇〇　開演
一二・〇〇　終了

■揃って全日本大会へ

山中小男子・竜美丘小女子

全日本バレーボール小学生大会の県大会で、山中小学校男子と竜美丘小学校女子の両チームが揃って優勝。

両チームとも、八月十四日から十七日まで東京で開かれる全国大会に愛知県代表として出場する。

山中小学校男子は二年連続、竜美丘小学校女子は三年連続の快挙である。

■多年勤続表彰の先生方

市内の学校に多年勤続（二五年）の教職員として七月一日の市制記念日に表彰を受ける方々は次の通り。

〔中学校〕▽甲山＝栗田昭夫▽美川＝高瀬昭三▽矢作＝大須賀明彦▽竜海＝杉本安▽城北＝筒木幸夫▽岩津＝杉浦尚夫▽常磐＝杉山隆之▽六ツ美＝近藤公一▽甲山＝渡辺恒夫

〔小学校〕▽梅園＝豊嶋典明▽山中＝稲垣正美▽矢作東＝柴田幸夫▽矢作西＝江端武▽三島＝奥平晴夫▽竜美丘＝北川英雄▽愛宕＝小出明▽美合＝飯見つわ子▽広幡＝安藤キヌ子▽矢作北＝後藤彬▽矢作南＝佐野寛海

第28回岡崎市中学校総合体育大会の記録（昭和59年5月13・18・20日・6月3日）

種目	性	成績 優勝	第2位	第3位
軟式野球	男	葵中	矢作北中	東海中　六ッ美中
ソフトボール	女	葵中	城北中	竜海中　岩津中
ハンドボール	男	六ッ美中	美川中	城北中　葵中
	女	六ッ美中	美川中	葵中　岩津中
軟式庭球	男	竜海中	新甲山中	東海中　福岡中
	女	美川中	矢作中	城北中　東海中
卓球	男	東海中	矢作中	竜海中　南中
	女	南中	東海中	六ッ美中　附属中
バレーボール	男	竜海中	矢作北中	新香山中　城北中
	女	竜海中	矢作北中	南中　岩津中
バスケットボール	男	城北中	岩津中	美川中　竜海中
	女	美川中	岩津中	竜海中　城北中
サッカー	男	福岡中	岩津中	南中　六ッ美中
剣道	男	常磐中	矢作中	南中　矢作北中
	女	福岡中	甲山中	美川中　東海中
体操競技	男	竜海中	東海中	葵中
	女	竜海中	南中	美川中
柔道	男	美川中	竜海中	
陸上競技	男	南中	矢作中	美川中
	女	甲山中	福岡中	美川中
水泳競技	男	竜海中	矢作北中	矢作中
	女	矢作中	矢作北中	竜海中

◎陸上競技

●印は大会新記録　▲印は大会タイ記録

男子	記録	氏名	校名	女子	記録	氏名	校名
100m	11'5	生駒　禎宏	矢作	100m	● 12'7	谷山　和美	甲山
1年100m	▲ 12'4	伊東　顕	岩津	1年100m	14'0	矢藤　加織	南
200m	● 24'1	杉浦　康秀	城北	200m	27'8	近藤　直美	城北
400m	● 55'5	木村　毅	美川	400m			
800m	●2'07'5	寺澤　隆志	南	800m	●2'31'1	杉浦由紀子	福岡
1・2年1500m	4'38'3	杉山　直史	南	1・2年1500m			
3000m	9'48'6	山木健一郎	竜海	3000m			
100mH	14'9	栗生　浩之	東海	100mH	● 16'1	森下　智美	葵
400mR				400mR	54'6	美川中	
800mR	1'40'9	南中		800mR			
低学年400mR	51'3	美川中		低学年400mR	56'5	葵中	
走幅跳	6m18	木村　毅	美川	走幅跳	● 5m28	清水　貴世	福岡
走高跳	1m75	岩堀　祐司	六ッ美	走高跳	● 1m53	鈴木　里香	岩津
砲丸投	14m51	福田　英久	矢作北	砲丸投	10m85	安井　伸江	竜海

◎柔道

学年	氏名	校名	学年	氏名	校名
3年	杉浦　謙治	美川中	2年	鈴木　隆博	竜海中

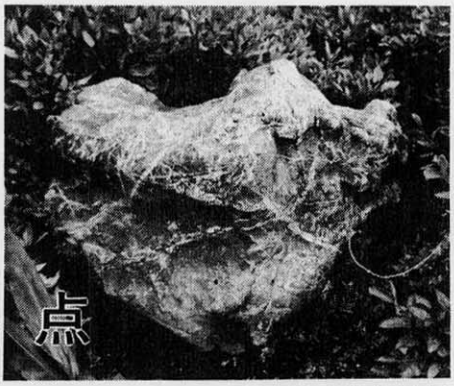
◎水泳競技

種目	男子 氏名	校名	記録	女子 氏名	校名	記録
100m自由形	岩附　宣人	矢作北	58'9(新)	井口　信子	岩津	1'09'9
200m自由形	岩口　裕	新香山	2'13'4(タイ)	石井麻依子	矢作	2'26'6(新)
100m平泳	落合　祐次	矢作	1'18'3	井川　明美	竜海	1'22'5(新)
100m背泳	野村　敬之	矢作	1'10'5	前田満美子	竜海	1'19'4
100mバタフライ	鈴木　歩	城北	1'05'2	三尾　早織	附属	1'13'5
200m個人メドレー	柴田　博	福岡	2'38'2	浅井寿巳礼	葵	2'48'0
400mメドレーリレー	竜海中学校		4'47'9	矢作北中学校		5'16'3
400mリレー	矢作北中学校		4'13'0(新)	矢作中学校		4'42'6

◎体操競技

男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
器械総合	竜海中		器械総合	竜海中	
団体体操	東海中		新体操団体	美川中	
個人総合	飯野　和広	竜海	個人総合	鈴木　友子	竜海
床運動	飯野　和広	竜海	床運動	鈴木みちる	竜海
鉄棒	三木　茂	東海	平均台	鈴木　友子	竜海
跳箱	飯野　和広	竜海	跳箱	柴田　如子	竜海

誓願寺の虎石



所在地－岡崎市梅園町

梅園の誓願寺は伝馬通りの北に連なる丘陵地の上にある。

幾段かの急な石段を登りつめると、右手に小さな神社がまってある。これは岡崎城の艮（うしとら）の方角を鎮守する諏訪神社である。

さて、誓願寺の庭園に「虎石」と呼ばれる石があると、旧岡崎市史に写真入りで紹介されている。虎というのは、むろん家康のことであろう。誓願寺の建つ以前、諏訪神社境内に的場があり、永禄の頃というから、まだ若かった家康が、ここで半弓の稽古をした時、腰をおろした石というのがそれである。旧市史の写真では、うっそうとした森の中に木柵で囲まれて、なかなかの銘石に見える。この虎石は誓願寺の大地蔵とともに岡崎の名物の一つであったそうだ。ちなみにこの地は梅園町字虎石という。

虎石とはいかなる銘石か、期待に胸おどらせて訪ねてみた。目的の石は、今では旧本堂の焼け跡と思われる庭の一角に、つつじの植え込みに埋もれてすえられていた。確かに座り心地のよさそうな緑色の川石だが、これではただの庭石として見過ごされてしまう。家康ブームに乗りそこねた銘石、何か今の世相を見るようで、哀れを感じた。

●カット　矢北中　原田雅文

オアシス

おもしろく楽しい授業、今年こそはと思いつつ一学期も残り少ない。一時間中、講議式授業で、「わからんか。」「もっと考えろ。」「だめじゃないか。」などといっておれば、子供たちにとっては授業は楽しくないばかりかいやになる。せめて一学期の最後ぐらいわかりやすく、楽しい授業をしたいものである。

静かな夜道を、思わぬ社会科の教材研究ができた喜びにひたりながら一人帰る。近代化した学区にも、たった一戸、専業農家が息吹いていた。誇らしげに田植えの終わった水田を指さす老人のひたいのしわは印象的であった。

住宅地化した学区の中で、まだ蛙の合唱の聞かれる一画があったとは……。

雨、雨、雨、うっとうしい梅雨の時期。お百姓さんにとっては大切な雨で、四季の季節に合うことで生活にリズムができる。

これが空梅雨であったりすると大変である。節水問題、プールの水等、すぐ生活に影響が出る。

子供たちにとっては、あまりうれしくない時期である。

水泳の季節、「プール管理・救助法」の校内現職教育が開かれた。

「スイッチ・ポン」で操作できる最近のろ過機にくらべ、洗浄が複雑な古い型の機械である。

先生たちは熱心に係の声に耳を傾ける。これから、元気に泳ぎ回るだろう子どもたちの無事故を祈りながら。

この本を

＊**回想　小林勇**　谷川徹三・井上靖
筑摩書房　2800

＊**良　寛**　水上　勉
中央公論社　1100

＊**働く母親の時代**　岩男寿美子・杉山明子
ＮＨＫブックス　750

＊**東北通信**　寿岳　章子
大月書店　1300

＊**読書の旅**愛書家に捧ぐ　森本　哲郎
講談社文庫　380

人生の目的が、自分の世界をすこしでも広く、深く構築することだとすれば、その夢は大きい方がいい。本を買うことは、その夢を買うことである。

書物が開く〝未知の世界〟に旅する愉しさは、何物にも替えがたい。例え難解であろうと、自己の完成をめざし、あわてず、ゆっくりとページを開こうではないかと語りかけている。

講談社発行の月刊誌「本」に連載された20話をまとめたものである。